

2022年 11月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

○ 11月 6日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会：永井 徹

感話：榎本 潤

聖書講話：マルコによる福音書 13章14～23節

「神殿崩壊の予告—その2 山に逃げなさい」

水戸 潔

○ 11月13日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会・感話：大手 美千代

聖書講話：イザヤ書 63章7節～64章

「主よ、あなたはわたしたちの父です」

武井 陽一

○ 11月27日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会・感話：溝口 春江

聖書講話：フィリピの信徒へ手紙 2章25～30節

「神は彼を憐れんでくださいました」

富井 直子

<ギデオン協会・浜松支部の皆様が参加下さり、集会の後に挨拶をして頂きます>

・・・・・・・・・・・・・・・・通 信・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 「みぎわ62号」を完成することがゆるされました。お一人おひとりが、神様から示されて証されました。皆様のお祈りに感謝しています。 1冊1000円 (+送料)

小羊の怒り

溝口 正

ヨハネの黙示録に「小羊の怒り」という言葉(6・16～17)が出てくる。おとなしい小羊でも、たまには怒ることがあるのであろうか？

黙示録ではキリストのことを「屠られた小羊」と呼んでいる。言うまでもなく十字架にかけられたキリストのことである。キリストは柔和にして心低く、黙って十字架の死を引き受けられた。御自身の命を捨てて神と人との間に平和を作り出す者となられたのである。

その柔和にして、何よりも平和を愛されたキリストが怒りたもう、というのである。それ故、愛をもって忍びに忍んだ挙句の果ての、止むに止まれぬ怒りであることが分かる。本当の怒りであり、愛から出た血のにじむ怒りである。

ヨハネによる福音書には、キリストが父なる神からこの世に対する裁きを行う権能を委任されていることが記されている(5・27他)。これとの関連において「小羊の怒り」を見ると、キリストが裁きの権能を行使されることがその怒りの発現であると考えることができよう。それはキリストが行なう最後の審判を意味するであろう。

我々は、この小羊の怒り(即ち、最後の審判の執行)に対して如何に対処したらよいのであろうか。この問題は決して架空の事柄ではなく、すべての人間が死を迎えるに当り、人生の総決算として最終的に問われる厳粛な問題である。我々は聖書によって、小羊の怒りから逃れ得る道は、罪を悔い改めて十字架の主^にゆるしを求める以外に、どこにもないことを教えられている。全人類の罪をあがない、すべての人を天国に迎え入れるためにイエス・キリストは来られた。キリストは全人類の救い主でありたもう。聖書はその救い主の「怒り」と「ゆるし」とを証するために書かれている。然り、「審判主」が「救い主」であることを。人類の救いの希望はここにかけられているのである。 『復活』第360号 1996年9月